

茨城方言に関する意識調査

—市町村役場職員を対象に—

秋山 智美

1. はじめに

茨城県は縦に長く、総面積では6,100平方キロメートルで全国では第24位の広さである。可住地面積でいうと約4,000平方キロメートルで全国第4位である。県内は広範囲に平地が広がり、住宅が点在している茨城県は県南地域や県西地域は東京圏からの人口流入も激しく、また県北地域は東北への通勤や通学も見られる。鹿行地域は、太平洋と霞ヶ浦に挟まれており、鹿島港を中心に臨海工業地域として栄えている^[1]。

最近では、2017年度上半期放送のNHK「連続テレビ小説」第96シリーズの作品の『ひよっこ』^[2]や毎年、10月に発表されるブランド総合研究所^[3]調べの『都道府県魅力度ランキング』における連続全国最下位としての知名度も茨城県の話題として新しい^(注1)。

本学（流通経済大学／龍ヶ崎キャンパス）が立地しているのは県南地域である。龍ヶ崎キャンパスで受講する学生（スポーツ関連の部活生といった場合は近隣の寮やアパートに居住している）は、多くが県内の実家や親類の家から自家用車やバイクなどで通学している。彼らは、県北、県央、鹿行、県南、県西地域と居住地はさまざまであるが、茨城方言をすべての地域で現地出身者が使用していたり、意識していたりするかと違う。

また一口に茨城出身といっても、地域によっても、年齢によっても個々の方言の使用ばかりか知識もさまざまであろう。著者は県南地域の出身であり、30年以上同地に居住していたが、県央地域の高齢者（70代・女性）との会話の中で「いしこい」という形容詞が出てきたときに、それを聞いても何を言っているのか分からなかった。だが、一方で「ごじゃっぺ」といった名詞は、共通した意味で使用していることを確認した。茨城方言は、地域や年齢によってもその使用や意識が違うのは明らかである。

そこで本稿では、質問紙調査を通し、茨城方言に関する意識について報告したい。

2. 調査概要

茨城方言について、名詞や動詞を中心に副詞など含めて45語を選定し、その使用率と意識を尋ねる質問をアンケート用紙による調査を行った。

県内の市町村役場宛に質問紙を送付し、郵送で返送してもらった。被調査者は、茨城県の市町村役場に在勤する10代から80代の正職員、嘱託職員、臨時職員を対象に選定し、各役場に依頼して実施した。なぜ市町村役場に依頼したかという点、多くの場合、役場職員（地方公務員）は地元や近隣地域で生まれ（育ち）、就職する者が多いため、方言に親しむ機会が多いと考えたからである。また他業種と異なり、就職した後に転職や転勤といったケースは少なく、方言の習得や使用において何かしらの影響があると考えたからである。

茨城方言について使用率をたずねる45語については、佐藤（2009）を参考に、選定した。回答者自身がその語を使うか、自身でその語を茨城方言と知っているか（方言であるという意識があるか）、周りの人はその語を使うかを尋ねた。

2018年10月2日から10月30日までに県内の各市町村役場に依頼し、受諾を得て発送し、同年10月9日から11月27日までの間に回収をした。

協力いただいた市町村役場は、県内（県南地域を除く）において、県北地域では、9市町村あるうち7市町村（高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市、那珂市、常陸太田市、常陸大宮市）、県央地域では、6市町村あるうちの6市町村（大洗町、水戸市、茨城町、小美玉市、笠間市、城里町）、鹿行地域では、5市町村あるうちの5市町村（鉾田市、鹿嶋市、神栖市、潮来市、行方市）、県西地域では、10市町村あるうちの9市町村（桜川市、結城市、古河市、八千代町、下妻市、五霞町、境町、坂東市、常総市）より調査の協力^(注2)を得た（表1参照）。

上記で受諾を得られた市町村役場宛に総数2300枚を発送し^(注3)、2004名から回答を得られた。本稿では、集計した（2019年7月現在）約半数の906名分の調査票をまとめ、考察した一部を報告したい。なお、それぞれの市町村ごとの比較は集計途中のため、ここでは、県北地域、県央地域、鹿行地域、県西地域に分けて茨城方言についての意識を分析、考察する^(注4)。個々の茨城方言45語の使用率については、別紙にゆずりたい。

表1. 各地域の回答数（n = 市町村数：協力数/総数）

県北（n = 7/9）	602
県央（n = 6/6）	410
鹿行（n = 5/5）	451
県西（n = 9/10）	541
総数（n = 27/30）	2004

表2. 性別と年代 (n = 899)

性別	年代	10代~20代	30代	40代	50代	60代以上	計
	男性		82	135	181	132	34
女性		102	70	102	50	11	335
計		184	205	283	182	45	899

表2からみてみよう。表2は、性別と年代についてである。最年少は18歳で、最年長でも81歳までの回答であった。男性は564名、女性は335名と男性の回答者が多い。

表3は、年代と職業についてである。市町村役場での調査のため、当然ながら、どの年代においても公務員の被調査者がほとんどである。

表3. 年代と職業 (n = 892)

年代	職業	会社役員	会社員 技術系	会社員 事務系	公務員	主婦 (夫)	求職中	フリーター アルバイト	その他	計
	10代~20代		0	0	2	174	0	1	6	1
30代		1	0	3	196	0	0	2	1	203
40代		1	0	5	266	1	0	6	3	282
50代		2	1	2	167	0	0	5	2	179
60代以上		0	0	0	34	0	0	5	5	44
計		4	1	12	837	1	1	24	12	892

表4は、性別と職業についてである。表3と併せてみると、女性や若年層、高齢層の被調査者のうち、「その他」の職業は、嘱託や臨時として在職していると考えられる。

表4. 性別と職業 (n = 893)

性別	職業	会社役員	会社員 技術系	会社員 事務系	公務員	主婦 (夫)	求職中	フリーター アルバイト	その他	計
	男性		4	1	5	543	0	0	6	4
女性		0	0	7	295	1	1	18	8	330
計		4	1	12	838	1	1	24	12	893

表5は、被調査者の年代と学歴である。年代に関わらず全体で557名は4年制大学卒である。次いで166名は高等学校卒である。表3、表4で前述したとおり、被調査者のほとんどは公務員なので、学歴は4年制大学、高等学校、専門学校、短期大学の順に多い。役場では正規、非正規に関わらず採用する基準の一つとして学歴も関係しているためであろう。表6をみると、男性は、女性よりも大学院、4年制大学、高等学校、専門学校卒が多く、男性よりも女性は、短期大学卒が多かった。これは、被調査者の年代に

よる背景（進学先の選択）が関わっているだろう。

表5. 年代と学歴（n = 893）

年代	学歴						計
	高等学校	専門学校	短期大学	4年制大学	大学院	その他	
10代～20代	24	16	3	130	9	1	183
30代	11	13	8	167	6	0	205
40代	66	31	30	141	13	0	281
50代	46	19	13	100	1	0	179
60代以上	19	4	2	19	1	0	45
計	166	83	56	557	30	1	893

表6. 性別と学歴（n = 894）

性別	学歴						計
	高等学校	専門学校	短期大学	4年制大学	大学院	その他	
男性	112	44	7	376	23	0	562
女性	54	39	50	181	7	1	332
計	166	83	57	557	30	1	894

表7. 年代と居住地（n = 887）

年代	居住地						計
	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	その他	
10代～20代	56	29	20	13	61	5	184
30代	52	39	12	16	73	10	202
40代	101	41	27	15	91	5	280
50代	63	21	16	2	74	1	177
60代以上	10	3	10	0	20	1	44
計	282	133	85	46	319	22	887

表7、表8は、被調査者の居住地と出身地である。居住地、出身地ともに県内の回答がほとんどであるが、県外に居住し、そこから通勤しているという回答もあった。ただ、居住地に関しては県周辺の在勤可能な地域（千葉県など）が多かった。出身地に関しては、千葉県、福島県や神奈川県などさまざまな回答があった。被調査者の居住地と出身地はほぼ重複しているといえる。

表 8. 年代と出身地 (n = 838)

年代	出身地						計
	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	その他	
10代～20代	53	22	18	7	59	14	173
30代	51	29	14	6	74	12	186
40代	94	37	24	7	85	20	267
50代	64	16	14	0	67	10	171
60代以上	11	3	9	0	17	1	41
計	273	107	79	20	302	57	838

表 9. 年代と家族構成 (n = 1694 : 複数回答可)

年代	家族構成										計
	いない	親	兄弟姉妹	祖父母	親戚	友人	配偶者	子ども	孫	その他	
10代～20代	21	123	61	45	0	0	39	16	0	1	306
30代	16	83	22	15	0	2	120	89	0	2	349
40代	6	100	9	10	1	0	228	220	0	3	577
50代	2	80	5	1	0	0	159	131	1	0	379
60代以上	1	16	2	2	0	0	38	22	2	0	83
計	46	402	99	73	1	2	584	478	3	6	1694

表 9 は、年代と家族構成である。

若年層(10代～20代)は、親と同居していることが多く、また祖父母との同居も多い。30代から50代にかけ、いわゆる子育て世代では配偶者と子どもと同居している人が多い。表 7 と表 8 から、生まれてずっと親と暮らし、結婚してそのまま配偶者と同居し子育てをするか、親と別居しても近所に住むといった生活形態が多いのではなかろうか。

3. 結果と考察

3-1. 方言への意識（好ましさ）

図1. 年代と方言への気持ち（n = 893）

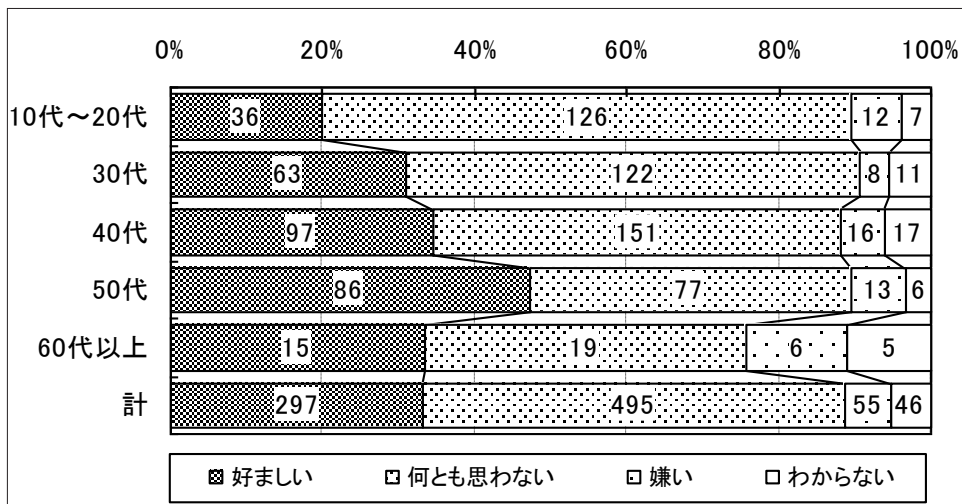


図1は、年代と方言への気持ちについてである^(注5)。以下、図中には実数で示す。10代から20代では20%ほどが「好ましい」という回答を示している、さらに30代以上になると「好ましい」という回答は増える。特に10代から20代の若年層の親世代以上（50代）になるとその回答は若年層の2倍以上となっている。

また、10代から50代は、茨城方言を「嫌い」という回答にあまり差はない（どの年代も7%ほど）だが、60代以上は若干割合が高い（12%）。全体として30%は、「好ましい」、55%は「何とも思わない」、6%は「嫌い」といった結果である。全体として方言について「何とも思わない」割合は高いが、50代は「好ましい」、「何とも思わない」が同割合であることはおもしろい。

図2. 性別と方言への気持ち（n = 898）

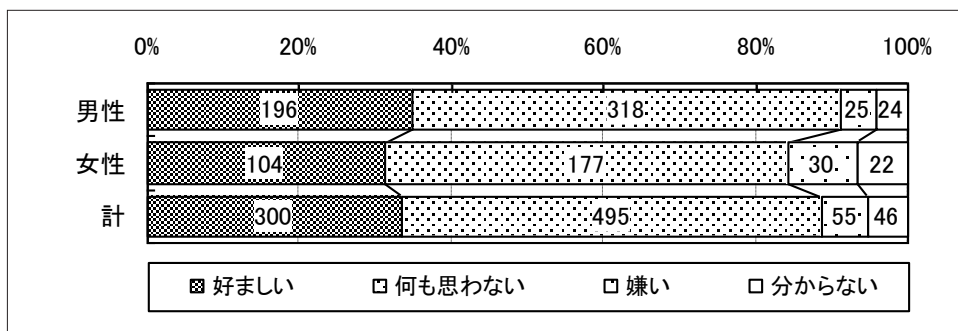


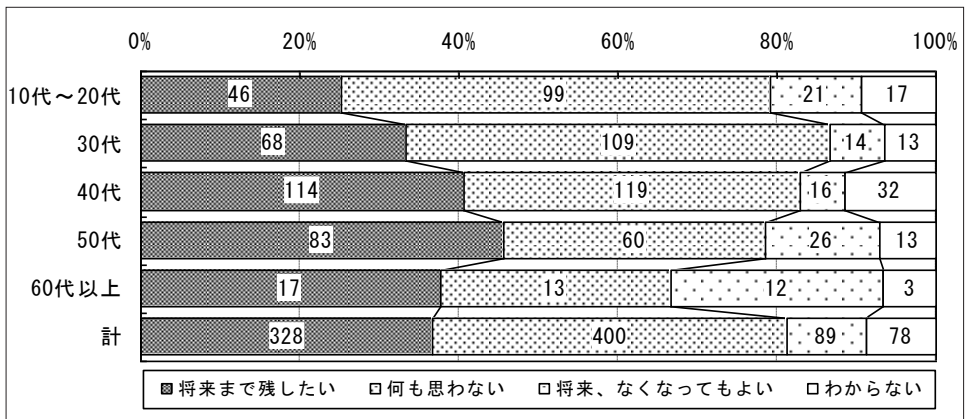
図2は、性別と方言への気持ちについてである。性差はほぼみられなかったが、茨城方言を「嫌い」「分からない」という回答の割合は女性の方が若干高い。会話体での茨城方言のイメージ（「田舎くさい」など）とその独特の語気の強さや荒さに抵抗感があるのは男性よりも女性の方が強いのであろう。

なお、方言の好ましさに地域差はみられなかった。

3-2. 方言への意識（伝統性）

図3は、年代と伝統への気持ちについてである。

図3. 年代と伝統への気持ち（n = 895）

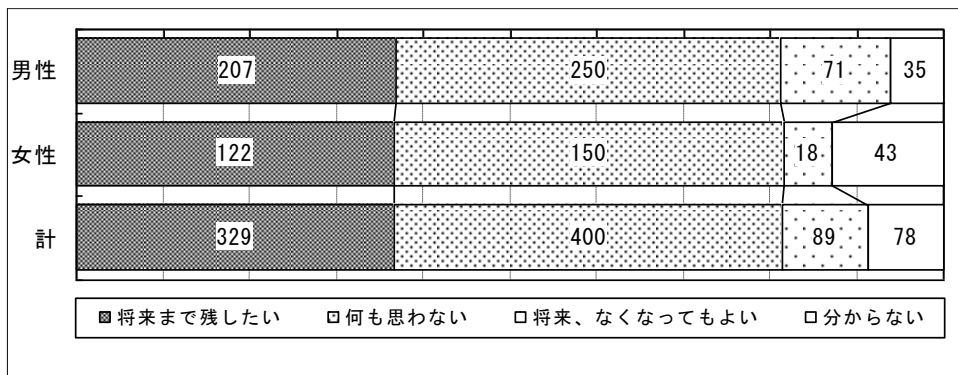


方言を、「将来まで残したい」という回答は、10代から20代（25%）、30代（33%）、40代（41%）、50代（46%）、60代以上（38%）であった。年齢が上がると、やはり方言への意識は図1同様にポジティブになるようである。どの年代と比べても50代は茨城方言に対しての前向きな回答が最も高かった。全体で約40%は「将来まで残したい」と考えている。一方、約45%は「何も思わない」という回答であった。

図4は性別と伝統への気持ちである。「将来まで残したい」「何も思わない」といった回答に性差はみられなかった。ただ、この図4では図2とは対照的に女性よりも男性のほうが「将来なくなってもよい」という回答が2倍以上みられた。図3で60代以上の男性は「将来なくなってもよい」という回答は10代から20代よりも高かったことから今回のデータでは、伝統性について60代以上男性はネガティブなイメージを持っている結果からの影響であろう。全体として37%は「将来まで残したい」、45%は「何も思わない」10%は「将来、なくなってもよい」「分からない」という結果であった。若年層ほど方言に対して特に思うことはないが、年代が上がるほど、方言に対する思い入れが強くなり、50代が最も強くなる。50代の親世代（70代、80代）の方言使用が関わっており、郷愁を感じるものとして肯定的なとらえ方をしているのではないだろうか。

なお、方言の伝統性に地域差はみられなかった。

図4. 性別と伝統への気持ち (n = 896)



3-3. 方言への意識 (自由回答)

茨城方言について、自由回答欄で考えやイメージを記述してもらった。自由回答のため、集計した906名の調査票のうち、「特になし」や無記入を除いて327名(総回答者のうち36%)の回答を得ることができた。

327名の自由回答をおおよそ4分類にして、以下、表10にする。「方言についての思い出や考えなど」は111、「何も思わない、自然になるまま」などといった回答は37、「好き、このまま使い続けたい」などといった肯定的な意見は106、「嫌い(汚い、荒々しい)使いたくない」などといった否定的な意見は73であった。4分類のうち、さらに表の左端に記号を付して大別している(例:「もす(燃す)」など可愛いひびきだと思(良い点)。濁音がつくと乱暴な感じになるので進んでは使わない(悪い点)。⇒□良い点と悪い点がある)。

以下、実際の回答を示す。

表10. 方言についての思い出や考えなど (n=111)

	意見(町村市(出身地)・性別年齢) □・・・良い点と悪い点ある △・・・思い出や考え, 知識
□	時々聞いて懐かしく思うこともあるが、後々失われるだろう。(古河市・43歳男性)
□	「もす(燃す)」など可愛いひびきだと思。濁音がつくと乱暴な感じになるので進んでは使わない。
□	大学生となり上京したときには茨城弁や訛りが恥ずかしくて仕方なく可能な限り隠そうと努力していた。今は誇りとまでは思っていないが以前ほど恥ずかしく思うことはなくなった。方言や訛りが消えて世の中が平板化していくのはさみしいことだと思。(常陸太田市・49歳男性)
□	茨城のことはキツイ印象があるがこれからも使っていきます。他県の人と話すとき誤解をまねかれ易いが、そりゃあしゃんめねえ。(常陸太田市・45歳女性)
□	こどものころから使っている言葉なので違和感はないが、標準語で指摘されると戸惑いはある。が、しかし、標準語に直そうとは決して思わない。(常陸太田市・43歳男性)

<input type="checkbox"/>	TPOが大事。相手を考えて使うべき。(常陸太田市・43歳男性)
<input type="checkbox"/>	親しみのある言葉なので、なくなってしまうのはさみしいと思います。(常総市・女性36歳)
<input type="checkbox"/>	プラスにもマイナスにも思わないがなくなってしまうのはもったいない気がします。(常陸太田市・31歳女性)
<input type="checkbox"/>	良い意味でも悪い意味でも、後世に残すべきである。(常総市・男性49歳)
<input type="checkbox"/>	文化。(常総市・男性54歳)
△	他県の(都市部)の高齢の方と電話で話すと方言がなつかしい気持ちになる」と言われることが多いが意識しているわけではないので何とも言い難い気分。(城里町・女性26歳)
△	時間をかけてなくなっていくものだと思う、高齢者とコミュニケーションをとるのはある程度の方言の知識は必須。(城里町・男性46歳)
△	(「ごじゃっぺ」など)。(東海村・女性32歳)
△	アンケートの設問の答えの中には方言というよりもややくずれたもの、方言以外から流行ったものも含めて回答しています。(結城市・47歳男性)
△	「まじょー」を使う。(潮来市・38歳女性)(行方市・52歳男性)(行方市・49歳女性)
△	「ごじゃっぺ」と同じ意味合いで「ちくらっぺ」と言うことがあります。(五霞町・35歳男性)
△	周りで話している人がいないので茨城の方言は分かりません。(五霞町・28歳女性)
△	東京や千葉に用事があって度々、お話ししていましたが特に「あなたの話が分からない」とは言われませんでしたのである程度通じているのでしょうか。(行方市・47歳女性)
△	今は方言を残すのは難しいと思う。(行方市・52歳男性)
△	「ぶっかく」ではなく「おっかく」はよく使う。(行方市・58歳男性)(日立市・53歳男性)
△	「いじやける」とはわざと使う。(日立市・38歳男性)
△	茨城県内でも地域によって方言や訛りが違っていていると感じる。(日立市・27歳男性)
△	「ぶつくて」「げろっぼ」「あれえもん」「いじやげる」「いっちゃける」「おぎむぐり」「ごんもぐぞ」=がらくた
△	「ごじゃらっぺ」「あばせる」=自慢げにいい気になる「そじれちゃった」「いがめが」=あやうく「きめっこ」=不機嫌になる
△	「おっかく」「よじゃれた」=形が崩れる「おぼんかだ」=こんばんは(日立市・53歳男性)
△	子供のころは高齢者が方言を使っていたのを覚えています。今では、親世代が使うのを聞きますが昔よりは聞かなくなりました。今回の調査で、訛りだと思っていたものが、方言なんだと認識したものがありません。また、聞いたことがない方言も少しあり、改めて、縦長の県だと認識しました。(茨城町・48歳男性)
△	茨城の方言は、東北の方言の影響を受けています。東京に近いのに方言があります。取手(茨城)と我孫子(千葉)は近距離ですが方言が違います。こわい(疲れた)については、茨城だけではなく、東京以外の東日本全域で使われています。茨城は方言の他に独特の訛りがあります。訛りについてはほとんどの人が気付かず、東京へ行って初めて気が付くという場合が多いです。茨城訛りは共通語の訛りにするのが難しいです。(茨城町・53歳男性)
△	茨城弁というより栃木、千葉、福島で使われている言葉が多い気がします。(茨城町・44歳男性)
△	方言は生き物ですね。(神栖市・男性46歳)
△	茨城県のためにありがとうございます。応援しています。私自身勉強になりました。ありがとうございます。(下妻市・男性65歳)
△	方言自体の使用は少なくなってくると思うが、その地域の伝統的なものであると記録として整理していくことは重要であると思います。(八千代町・男性60歳)
△	考えではないが「蛾(が)」のことを「べらっちょ」と言って子供のころ使っていた。(常陸太田市・54歳男性)

△	高齢者の多い集落や昔からの個人商店など、その地域に溶け込むためには必要なアイテムだと思う。しかし、核家族化や大型店舗の進出により薄れてきているのは事実である。(常陸太田市・55歳男性)
△	茨城弁は単語もそうだが、イントネーションに特徴があると思います。(常陸太田市・53歳男性)
△	大学時代で寮生活の際、同室が富山県人であった。その時、私が、「疲れた」ことを「こわい」などと言うことが多かった様で、何かがでるのかな～?などと不安げだったそうでした。(笑)……。茨城県人のなまり(方言)は、なかなか抜けない様である。イントネーションも同様!!関東なのか?東北なのか?方言があるのは、親近感があるが、若い人には聞き取りにくいらしい???(常陸太田市・56歳男性)
△	我が家ではお風呂を沸かすこと「もす」を使います。「お風呂もした?」とか・・・これは方言ですか?(常陸太田市・50歳女性)
△	方言のなまりが強い県(例:青森県)よりは何を言っているのか聞き取りやすいと思います。(常陸太田市・44歳男性)
△	祖父母が他界し、方言を聞く事が少なくなったと思う。祖父母から孫には言葉の伝統は伝わりにくく、両親が方言を使う場合は聞いたことのある言葉もあった。茨城は独特の語尾上がりのイントネーションがあり、方言も伝統であると思うが、昔と違い学校の教科書は標準語が多く、方言は徐々に消滅するのでは・・・と寂しく思う。(常陸太田市・43歳男性)
△	土地柄や年代によって、方言が違ったり、通じなかったりするのもコミュニケーションツールの一つかと思う。(常陸太田市・45歳男性)
△	もじゃっぺ→ごじゃっぺ です。(常陸太田市・46歳男性)
△	20代以下は意味が分かっていてもほとんど使わないので一部を除いて廃れていくと思われる。なおこの設問にない方言使っているというのものもある。例)問03「あまだ」ではなく「うんと」。問42「ぶっかく」でなく「わかかく(割っかく)」更に同じ市内でも意味が分かる人といない人いるのもわかって面白い。県北部は福島に近いところもあるのでそれが理由かなと思った。(常陸太田市・43歳男性)
△	言葉より、イントネーションだっべね、でーじなのは。(常陸太田市・50歳男性)
△	かえってどうも。いやどうも。茨城方言が世界標準語となる日が訪れますように。(常陸太田市・46歳男性)
△	耳にしたことのない方言もあったので居住地域や自分が知っている方言がどのあたりまで使われているか知りたくなります。(常陸太田市・45歳女性)
△	その地方での生活に応じて、様々なことばが生じたのでしょから、生活様式が画一化されるに従って、ことばも同様になっていくこともあるのでしょ。(常陸太田市・45歳男性)
△	茨城弁で、動物や昆虫などを呼ぶときに「～め」の言い方について研究されている先生が茨城大学にいらっしゃると聞きましたので、その方に研究結果のお話をお伺いしたいです。(常陸太田市・48歳男性)
△	茨城の方言は、大阪弁のような地域の言葉というより、年齢層の影響が大きいと思う。今の高齢者がいなくなれば、方言も無くなるのではないか。情報化社会なので、標準語が使われるのは自然なのではないか。(常陸太田市・49歳男性)
△	使う人がいれば残るだろうし必要なければ無くなるものだと思うので目くじら立てて『残そう』という感覚はありません。地域への人の出入りが無いような時代ではないのでそのうち方言や訛りなどは無くなるか全国で同じようなものを使うようになるのではないでしょか。辞書など作っておくと文化として残せるのではないかとはいいますが自分で作る気はないです。(常陸太田市・38歳男性)
△	茨城弁で言ったほうがニュアンスはしっくりくることも多いので、なくなってしまうのは寂しいかなとは思う。(常陸太田市・31歳女性)
△	テレビで、いわゆる茨城のなまりを紹介しているのは、県南に居住する方というイメージ。自分の居住する県北地区は、そこまでなまりが強くない。(常陸太田市・33歳女性)

△	「あおなじみ」は有名だが、「ひやす」など知らずに使ってしまうこともあった。茨城弁を県外の人に話してしまうと恥ずかしいので、気を付けている。(常陸太田市・29歳女性)
△	茨城弁は暴言のようにとられがちだが、ユーモアとして捉えられれば抵抗がなくなると思う。茨城放送のラジオ番組「マシコタツロウのあおなじみ」がもっと全国的に広まってほしい。(常陸太田市・26歳男性)
△	畑仕事をしていて、よそに行かなかった祖母が使っている言葉の半分くらいは方言ではなく、祖母が編み出した言葉だと思っていたが、多くは方言だったことを最近になって父も含めて知ることになった。(常陸太田市・27歳女性)
△	茨城だけの方言なのかな？と思うものがいくつかありました。同じ県内でも地域によって意味が微妙に違う言葉も多いと思います(常陸太田市内でも地域によって使い方や意味が違う言葉があるので)。(常陸太田市・32歳女性)
△	末尾が“っぺ”等が付くと、強い言い方の印象を与えてしまうデメリットがあると思う。ただ、茨城では方言を話すことで妙な連帯感が生まれ、方言が知らない間柄でも仲良くなれるツールのようなものでもあると思う。方言は各地有ると思うが、茨城はイントネーションが特殊で面白く感じる。ことばの伝統については、特になくなって欲しいとも残したいとも思わず、その時代に合った言葉が浸透すればいいと思う。個人的には、方言が完全になくなることはないと感じる。(常陸太田市・29歳男性)
△	祖母(90歳代)がよく方言を使用しており年齢が若くなるほど使用していないように感じる。祖母が使っているためそれが茨城の方言だとわかる。地元であれば使用するがそこ以外の場所に行くとき積極的に使用していない。(常陸太田市・25歳女性)
△	知りたい。(常陸太田市・27歳女性)
△	お年寄りが使う言葉は、県民でもわからないことが多いと思う。また、地域差もある。(常陸太田市・22歳女性)
△	学生時代、常陸太田市内で3年間アルバイトをしていたが、お店のお客さんのほとんどがおじいちゃんおばあちゃんだったので、アルバイトをしているうちに自分の訛りが前より強くなった。別に自分が訛っていることを気にしていないし、むしろ、各地域の個性が出ているので趣深いと思う。(常陸太田市・22歳女性)
△	全然知らない茨城弁も多かった為どの地域にどの方言が使われているのか気になった。知っている方言ほど汚い言葉が多かったのでそういう方言が覚えやすく残りやすいのかなと思った。またこのような言葉が残っているため茨城の人の話し方は怖いと思われるのだろうと思う。(常陸太田市・23歳男性)
△	アンケートに回答する中で幼い頃から聞いていた言葉が茨城の方言だったという事を始めて知ったものがいくつかありました。このほかにも方言だという事に気付かない言葉もまだあるのかなと思いました。(常陸太田市・29歳男性)
△	方言と知らずに使っていた言葉がありました。昼休みに周りの方との話題にしたので楽しかったです。(小美玉市・女性30歳)
△	祖父母や両親世代はよく方言を使うので知っていても、自分たちの年代以降、最近の子達はほとんど使わないので、もうすぐ消えてしまうのではないかと少し寂しくもあります。特に最近の子は聞いたことも無い言葉が多いのでは。アンケートの中の言葉について自分には祖父母がいたのでなじみがるけど、周囲では知らない人が多かったのにおどろいた。(小美玉市・女性44歳)
△	このアンケート中、選択肢に書かれている「まあ使う・まあ聞く」の「まあ」の意味が分かりませんでしたので「ときどき」の意味で回答しました。方言ですか？(小美玉市・女性58歳)
△	方言と古い標準語の区別がつかない。(那珂市・男性24歳)
△	設問の中でいくつか使用方法が違う気がするものがあつた。(水戸市・女性30歳)
△	茨城県内でも地域や年齢によって違いがあると感じました。(水戸市・女性38歳)
△	なまって標準語に濁点がついただけの言葉は方言なのか？「いばらき」→「えばらぎ」とか(水戸市・男性42歳)

△	正調茨城弁を話す人は絶滅危機となりつつある。(水戸市・男性62歳)
△	方言だと思って使っている人はいないと思う。使う使わないの違いは自分では全く使わないが弟は使うので、生活圈とか世界の広さに依存すると思う。(水戸市・男性39歳)
△	県南、県西、県央に住んだ経験があるが、方言に違いがあるので「茨城のことば」という安易なくくり方にこだわらず、よい研究成果が上がることを期待します。(水戸市・男性48歳)
△	ちょーろくまでな方言です。(男性33歳)
△	県内でも県北、県南ではだいぶズレがあると思います。(境町・男性30歳)
△	このアンケートは、県央、県北あたりで使うものが多いのでは？県西地域ではほとんど聞かないものが多い、または活用の仕方が違うのかも。(境町・女性38歳)
△	自分ではあまり使わないが、なくなるのは寂しい。単語は無くなるかもしれないが、イントネーションやリズムは残るのでは。(笠間市・女性50歳)
△	もうまもなく、ネイティブが絶えてしまうと思われるので、音声、映像など、残すなら今がチャンスです。民話の語りで残すという方法もあります。農村地帯の50代以下ならまだまだいけます。イントネーションは私もまあまあだと思いますが、個別の語彙については、地域差もあり、使われなくなったこともあり、消滅の危機にあります。各市町村などで昔の言葉は記録されていることも多いので、あとは音声(ネイティブの)だと思います。(水戸市・男性46歳)
△	本当の意味はわかっていても、実際に使わないといつかはなくなってしまったと思います。(笠間市・女性51歳)
△	茨城は可住面積が広い故か、県北、県央、鹿行、県西、県南で方言も大きくことなるため、一口に「茨城弁」と括られることに違和感があります。(古河市・男性43歳)
△	茨城としてくくるのは無理があります。(古河市・男性48歳)
△	TPOはわきまえた上であえて使用しています！(古河市・女性46歳)
△	茨城県の方言はあまりなじみがない地域なのか、テレビで茨城の方言をやっているでも何を言っているかまったく通じません。むしろ同じ県内に使っている人たちがいることを不思議に思います。このあたりで唯一浸透しているのは大丈夫をしめす「だいじ？」という問いかけくらいかもしれないです。(古河市・女性28歳)
△	市街地よりも郊外で耳にする。農家の方との話でよく耳にします。(古河市・女性29歳)
△	方言と知らずに使っているものもありました。茨城のことばについては普段とくになんとも思いませんが、無くなってしまおうと寂しいので、茨城の文化として「ごじゃベディア」のような形で記録として残るといいなと思います。(栃木県小山市・男性28歳)
△	「茨城の」という括りで行われる民俗調査は、周縁、マージナルな地域への視座が欠けるものが多く見受けられます。方言のグラデーションについて、とくに北関東では「栃木方言」を茨城で使う例など、アンケートに取ったものをいつか見てみたいです。(古河市・男性33歳)
△	私は県西なので、栃木の方言に近いのか、茨城の方言はわからないものも多くあり、ちょっと違う。(古河市・男性55歳)
△	大学では全国から集まって来て、いろいろな方言を聞くことができたが、他地区の友人が茨城弁を使うとなんかおかしかった記憶があります。(常総市・男性60歳)
△	明治生まれの祖父母、昭和1桁の父母の世代で使っていたので懐かしい。水海道と坂東でも違うので(そうだっぺ=水海道。そうだっへ=坂東、七重地区)、県南・県西と県北では同じ茨城でもかなり違いがあると思います。ここに出てきませんでしたが、「ちくらっぼ(ウソ)」「ほくとう(丸太棒)」「服がくさっちゃった(ぬれた)」「穴メド(穴)」「いいあんばい(ちょうどいい)」「ほっか(そうか)」等、思い出すといろいろあります。(常総市・女性61歳)
△	祖父母と同居している子供は自然に耳にすることがあると思う。地域によってかなり差がでると思います。(常総市・女性61歳)
△	イバラキング(青木さん)の本やお話を聞くと研究に深みが出ると思います。頑張ってください。(常総市・男性38歳)

△	幼少の頃、周りの大人達から聞いて覚え、自然と身に付いた、昔懐かしい思いがあります。(守谷市・女性49歳)
△	元々の何て言葉がどう変化して、短縮されてこうなったかなと考えると面白い。(常総市・女性41歳)
△	“カミナリ”や“赤ブル”“佐久間一行”がネタで話していることがクローズアップされている。ネタとしてだけでなく“茨城王”の青木さんがもっと有名になったらいいと思います。(取手市・女性44歳)
△	敬語や丁寧な言葉使いは、習得が必要だが、それ以外の日常的な単語については、時代の移り変わりと共に変化、増減すべきと思う。(常総市・男性30歳)
△	問37は、お調子者に対して、調子に乗っているな、的な意味で使うことが多いです。(常総市・男性24歳)
△	40代の祖父母の年代がいなくなって以降わざと使う場合を除いて、あまり聞く機会もなくなりました。(坂東市・男性48歳)
△	県内でも地域差が大きいなあとと思います。(常総市・女性36歳)
△	言葉は移り変わるものだから、方言も「新しい方言」というものがあるのでは?「かつての方言」だけが方言ではないと思います。(常総市・男性31歳)
△	TVで放送しているような方言、なまりは聞いたことがない。(常総市・男性29歳)
△	方言そのものについては、成り立ちや歴史的背景とともに保存されるべきだが、常用のことばとしては廃れていくと考える。いわゆる方言のもつあたたかみというのは、田舎っぼさの演出や共通のバックボーンからくる仲間意識の想起といった効果があるものの、伝わらない言葉が増える程、薄まることは否めない。(守谷市・男性31歳)
△	文字で読むとパッと見わからないと思った。せんべいはぶっかいて食いたいと思いました。(常総市・男性45歳)
△	生まれたときから聞いていたので、ききなじみあるが、私は、気のしれた友人や家族、親戚にしか使っていない。(常総市・女性30歳)
△	何気なく使っている方言も、今の子供達は使わないので、なくなってしまうでしょう。(常総市・男性53歳)
△	他の地方の人がどのように思っているのか、聞こえているのか気がなります。(常総市・女性24歳)
=	何が方言で何が方言じゃないかわからない。(城里町・男性41歳)
=	方言と知らずに使っている言葉があつて驚く時がある。(東海村・35歳女性)
=	方言とは思わずに当たり前に使っていた言葉もあり、驚きました。(結城市・57歳女性)
=	「〜ぐし」は標準語かと思っていました。(潮来市・38歳女性)
=	はじめて聞く方言があつてびっくりした。(潮来市・33歳女性)
=	普段使っている言葉が、方言だと気が付かずに使用していることがわかってとても興味深かった。また、茨城県内においても若干の言い方が違ったりするのが面白かった。設問42などは自分の町では「おっかく」という。また、うちの母は、酸っぱいというのを「すっかい」と言ったりする。同じ地域でも若干の違いがあるので方言は奥が深い。(茨城町・48歳男性)
=	茨城出身の自分でも分からないものがあつたり、聞き取りづらいものもあつたりして困ることがあるが茨城を象徴するものの一つであると思う。無理に覚えたり、使ったりする必要はないと思うが知っていることで自分が茨城人』だと再認識できるものだと思う。(茨城町・28歳男性)
=	意外な言葉が方言である事に驚いた。(神栖市・男性26歳)

表11. 何も思わない, 自然になるまま (n = 37)

	意見 (町村市 (出身地)・性別年齢) = ・ ・ ・ 何とも思わない, 意識しない, そのままが良い
=	方言として話しているのではなく, 話しているのが方言だったのでとくに考えはない。(城里町・男性29歳)
=	日常で使っているものですから, 特段何とも思いません。方言とは周りが言っているものですからそんなものだと思います。(結城市・36歳男性)
=	方言と意識すらしないもの。(行方市・31歳男性)
=	文化そのもの。(ひたちなか市・51歳男性)
=	茨城の言葉と知らずに使っていました, 独特な言い方なのですね。(ひたちなか市・49歳男性)
=	方言は会話の中で自然に使われるものだと思います。変な報告に誇張されて使われている気がします。質問の方言の言い方が違うものでしたら聞いたことがあるものがいくつかあります。(古河市・61歳女性)
=	どのことばが茨城弁なのか不明で他県の人との会話で知る程度です。(古河市・52歳女性)
=	県西なのであまり方言はないと思っていた。(古河市・34歳女性)
=	自分の地域はそんなに方言がきつくないので特に何にも思わない。(古河市・33歳女性)
=	無意識。(日立市・53歳男性)
=	自然に使い慣れた言葉なので, 無理して直す必要はないと思う。(茨城町・56歳男性)
=	同年代, 同郷の方との会話では自然に方言を使っている。(茨城町・56歳男性)
=	自然と言葉は変わり, 進化し, 続くものなので特別な思いはありません。(神栖市・女性40歳)
=	無理に無くさなくても, 無理に残さなくてもいいと思います。不便なら自然になくなります。(下妻市・男性43歳)
=	言葉としては理解できるが自分も周りも使用していなものがあった。(常陸太田市・56歳男性)
=	方言が伝統なのかよくわからないが, 自然淘汰はしかたないと考えている。(常陸太田市・58歳男性)
=	可もなく不可もなく特別のこともなく何もなく自然なこと。無理して標準語にすることなくこのままでいいと思う。(常陸太田市・46歳男性)
=	方言を使っている意識がなく, テレビと同じ言葉, 発音で話をしているつもりが, 東京の人たちに聞くと, 相当なまっっているらしい。(常陸太田市・44歳男性)
=	標準語だと思っていたことがたくさんでした。(常陸太田市・45歳男性)
=	自然に身についたものなので特にこだわらない。(常陸太田市・60歳男性)
=	生活の中にその言葉 (方言) があるのなら, 無理に標準語に合わせずそのままよいと思う。(常陸太田市・53歳女性)
=	ことばは, その時代に生きる人間のコミュニケーションの方法であり, 日本語も使われ方が昔に比べ変化してきているので, 茨城の方言もこれから徐々に無くなっていくのは自然の流れであると思う。(常陸太田市・62歳男性)
=	自然と身近に存在しているので特別な感覚や考えはありません。(小美玉市・男性47歳)
=	茨城の言葉とは知らずに使っているものが多いと感じました。(常総市・男性48歳)
=	特に方言のことで意識したことはありません。意識して後世まで語り継ぐものでもないと感じております。自然のなりゆきのままでいいのではないのでしょうか。(つくばみらい市・女性49歳)
=	知らずに使っていたものが多かったです。(古河市・女性29歳)
=	無理に残したり, なくしたりせず, 自然な流れにまかせていけばいいと思います。(笠間市・男性51歳)
=	守っていくもの, そうでないものを普通に考えて行けばいいのでは。無理に残さなければとか考えることは少し違うと思います。進化です。(水戸市・男性50歳)

=	共通語だと思っていた言葉がけっこうありました。(笠間市・女性29歳)
=	普段使っていることばが方言である認識がなかった。共通語だと思っていることばが多かった。(笠間市・男性47歳)
=	方言と知らずに使用していることが多くあると感じました。(境町・男性27歳)
=	茨城方言だと問われると共通語ではない程度の認識で回答させていただきました。(古河市・男性61歳)
=	普段から周りにあることばなので、あまり深く考えたことはないです。(境町・女性34歳)
=	標準語だと思っていた言葉が方言である、ましてや茨城のものであることは知りませんでした。(境町・男性30歳)
=	あたり前に使っているなのでそのまま自然に使い続けていけば良いと思う。(大洗町・女性35歳)
=	ラジオで聞いて覚えた。どちらかというに残して欲しいが、自然に残っていくのがよいと思う。(水戸市・男性30歳)
=	無理して直す必要は無いと思う。(水戸市・男性34歳)

表12. 好き、このまま使い続けたい (n = 106)

	意見(町村市(出身地)・性別年齢) □・・・良い点と悪い点ある ○・・・良いと思う
<input type="checkbox"/>	初めて聞く人には乱暴な言い回しだと感じられると思いますが、実は温かみがあると思います。(常陸太田市・57歳男性)
<input type="checkbox"/>	ふざけた時の言葉は面白い。本気で説教されるとき言葉は、愛情や重みがあってよいと思う。(常陸太田市・56歳男性)
<input type="checkbox"/>	一見ぶっきらぼうだが、温かみを感じる言葉だと思います。(境町・男性35歳)
<input type="checkbox"/>	高齢の方や40代以降の方が使っていると、あたたかみがあって好きだが、若者が使っているのを聞くと「イナカくさいなあ」と感じてしまう矛盾を持っています。自分自身はあまり使わないが残していきたいです。(常総市・女性27歳)
<input type="checkbox"/>	ぶっきらぼうで狭いコミュニティでしか理解がされない面がありつつ、一度その輪に溶け込めると愛を感じる言葉である。(水戸市・男性34歳)
<input type="checkbox"/>	県外の人からすると、すこし強い口調に感じてしまう。伝統を残すことも大切だが、少し気をつけて話す必要もあると思う。(水戸市・女性26歳)
<input type="checkbox"/>	田舎くささがあり、かっこよくはないが、聞きなれた言葉なのでほっとする感覚がある。(坂東市・36歳男性)
<input type="radio"/>	親や祖父母がよく使っていたことを思い出し、記憶がよみがえり心が温まりました。(城里町・女性55歳)
<input type="radio"/>	はじめての方にはきついかもしれませんが、人柄の意味が分るとあたたかく、味があると思います。(結城市・40歳男性)
<input type="radio"/>	自分では方言と思って使っていなかったのに県外の人と話していて方言と気づき、びっくりすることがあります。(だいじ=大丈夫) など。
<input type="radio"/>	昔は方言が嫌でしたが今では方言があることはおもしろいと思っています。(結城市・41歳女性)
<input type="radio"/>	親しみやすい方言もあっていいと思います。(潮来市・44歳女性)
<input type="radio"/>	身近なことば(方言)についてはそのまま残してほしいと思います。(潮来市・51歳女性)
<input type="radio"/>	都内に住んでいたころ、地元で電話した瞬間に言葉が戻ったらしく、友人に「何語?理解できなかった」と言われました。10代の頃は恥ずかしかったけれど今は特別感があります(茨城に住んでいないと理解できない茨城人の特権)。(潮来市・38歳女性)
<input type="radio"/>	周りの人は標準語ですが、私は好んで使っています。(五霞町・42歳女性)
<input type="radio"/>	茨城というより東北圏の特徴を持ってなじみ深い言葉だと思っています。使っている方は自然なのでよく使いますが直すとなると難しい言葉ですね。(行方市・61歳女性)

<input type="radio"/>	楽しいアンケートでした。(行方市・47歳男性)
<input type="radio"/>	イントネーションはきついが内容は優しいかと思う。(行方市・55歳男性)
<input type="radio"/>	おもしろい。(行方市・49歳女性)
<input type="radio"/>	方言にはその地域の魅力があるので面白いと思う。(行方市・47歳男性)
<input type="radio"/>	食べ物と同じでその土地の味わいがあると思います。(行方市・66歳男性)
<input type="radio"/>	良い意味、おもしろい言葉は残ってほしいと思う。(行方市・60歳女性)
<input type="radio"/>	自分のキャラを生かしてくれるような気がします。(行方市・49歳女性)
<input type="radio"/>	自分自身は、あまり使っている意識はないのですが将来なくなってしまうのはさびしい気がします。(ひたちなか市・47歳女性)
<input type="radio"/>	地域によっていろいろな方言があるので知ると面白い。(ひたちなか市・50歳女性)
<input type="radio"/>	年配の方と話した時に自分が使わず思い出すことがあり、心静まる時があります。ラジオ(茨城放送)で茨城弁のコーナーなど笑えばなしです(訛り方)。(ひたちなか市・56歳女性)
<input type="radio"/>	地元の言葉であり、愛着もあるが時代の流れにともない、使い手が減少していくのは仕方ないと思っている。(ひたちなか市・27歳女性)
<input type="radio"/>	地域ごとの方言はよいと思う。(坂東市・47歳男性)
<input type="radio"/>	土地の様子、気候から生まれたもの、生活のおいを感じる。(坂東市・56歳男性)
<input type="radio"/>	研究する価値が大いにあると思います。(行方市・26歳男性)
<input type="radio"/>	地域住民(特に年配の方)とのコミュニケーションツール。就職したときからできるだけ使うようにしている。茨城弁に限らず、若い世代で方言で話しているとかわいい(ほほえましい)。(常陸大宮市・44歳女性)
<input type="radio"/>	温かみを感じる。(古河市・51歳男性)
<input type="radio"/>	県内でも地域によって方言が違っていてもおもしろい。(日立市・49歳男性)
<input type="radio"/>	素朴で飾らない言葉でいいと思う。(日立市・29歳女性)
<input type="radio"/>	よかっぺ。(茨城町・38歳男性)
<input type="radio"/>	茨城弁は、イントネーションも独特で、田舎っぺ感が強いので、恥ずかしいという気持ちになります。したがって、進学等で東京に行くとき標準語に直そうとしたものである。しかし、関西の友達に決して関西弁を直さなかった。それだけ、言葉を含めて自分の郷土に誇りと愛情があるからだろう。今回のアンケートで普段、何気なく使っている言葉、聞いている言葉が茨城弁だったのかと気付かされるものがあり、有意義なアンケートでした。ありがとうございます。今後は、我がふるさと茨城に誇りと強い愛情を持ち、茨城弁を大切にしていきたいと思っています。ご存知かもしれませんが、IBSラジオで毎週水曜日15:20頃からマシコタツロウさんの「青なじみ」のコーナーが面白いので一度お聞きください。(マシコさんは常陸太田市出身でこのコーナーは茨城弁でしゃべります。)
<input type="radio"/>	(茨城町・54歳男性)
<input type="radio"/>	大学は、北海道に進学し、友人には怒っているようだとよく言われました。もっと女性が使っても可愛い方言の方がいいなあ、と思った時期もありますが、帰郷して耳にすると落ち着くものです。(茨城町・30歳女性)
<input type="radio"/>	茨城のことばを聞くと心が和む。(神栖市・男性62歳)
<input type="radio"/>	生活の中で、まだ使われているものもあるので残していきたいと思います。(神栖市・女性41歳)
<input type="radio"/>	あったかみがあってよい。(鹿嶋市・男性47歳)
<input type="radio"/>	京都のような品があると聞いても心地よい。(神栖市・男性64歳)
<input type="radio"/>	固有の文化のまま自然体であればよいと思う。(神栖市・男性64歳)
<input type="radio"/>	長年に渡り使われてきた方言は後世にも残すべきである。(神栖市・男性58歳)
<input type="radio"/>	方言だと知らずに使っている事が多いと思いました。また方言は面白いなとも思います。(つくば市・女性23歳)

○	個性があつてとても愛着がある。県外の人とコミュニケーションをとる際の「つかみ」は茨城弁で取っている。(下妻市・男性38歳)
○	他県の方からは荒々しく聞こえるが、親しみ、温かみがあります。(下妻市・男性50歳)
○	茨城から出たことがないので茨城のことばが大好きです。(下妻市・男性49歳)
○	大切にしたい。(結城市・男性49歳)
○	特に意識した事はないが、個性であり残っていた方がよいもの。(下妻市・男性31歳)
○	改めて茨城の方言を再認識し「こんなことばもあったの?」と思いました。大事にしたいものです。(八千代町・女性53歳)
○	地域の特性として認知してほしい。(八千代町・男性56歳)
○	お笑い芸人さん達にどんどん広めて欲しい。(神栖市・女性63歳)
○	消えて行く言葉があるのは仕方のないことだけれど、少しでも残っていれば嬉しく思う。(八千代町・女性31歳)
○	方言を知っている、話せることを誇れる風潮になって欲しいと思う。(八千代町・女性28歳)
○	方言は地域の文化だと思います。(常陸太田市・65歳男性)
○	方言は郷土の歴史の中で培われ語り継がれてきた言語としての文化なので残しておく方法があればよいと思います。(常陸太田市・59歳男性)
○	素朴で暖かい。(常陸太田市・59歳男性)
○	明治生まれの曾祖母に見てもらった息子は3歳の時に、訪ねて来た主人の友達に「おあがりなんしょ。」(家の中にどうぞ)「じんぎしねえで、おあがりなんしょ。」(遠慮しないで、食べてください)。ネイティブ茨城弁者でした。30代の現在は、イントネーションのみの茨城人。地元を愛するよう言葉も大切にしたいと思います。(常陸太田市・58歳女性)
○	幼少時から自然に耳にしてきた言葉で愛着があり、後世へ伝えていってほしい。(常陸太田市・53歳男性)
○	標準語はいつでも話せるので、郷土の方言があること自体がうれしい。(方言のない方は何とも思わないと思いますが。)(常陸太田市・50歳男性)
○	誇りである。(常陸太田市・46歳男性)
○	言葉は標準語に近いが、イントネーションが独特であるので、これを保存していけば面白い。(常陸太田市・50歳男性)
○	自分もこのような方言を使っているのかと、改めて知りました。これからも方言を良い意味で大切にしていきたいです。(常陸太田市・54歳男性)
○	個人的には好きなのだが茨城の方言は強い語気なので県外の人には喧嘩を売ってるかのようにとられやすいので自分自身気を付けている。(常陸太田市・48歳男性)
○	土地によっては使う方言も全く違うので聞いたことのない方言が沢山あった。そういうところが面白いですね。(常陸太田市・46歳男性)
○	標準語以外にくっちゃべれるんで素晴らしいと思う。(常陸太田市・59歳男性)
○	自分は使わないが、地域固有の言葉は残ったほうがよい。(常陸太田市・46歳男性)
○	仕事の上でも、地域のコミュニケーションの上でも方言は大事です。(常陸太田市・42歳男性)
○	同郷の方、特に目上の方と話す時は重宝する。(常陸太田市・38歳男性)
○	茨城だけではなく、お国訛りはその土地土地の見えない財産だと思う。核家族化が進み、ことばだけではなく風習等祖父母から孫へ伝えられることが少なくなっていることは残念だ。(常陸太田市・59歳男性)
○	良いと思う。(常陸太田市・59歳男性)
○	人との会話に情があつていいと思う。(常陸太田市・58歳男性)
○	方言は大切な言葉の文化だと思います。方言の意味を知って使用するの面白いと思います。(常陸太田市・46歳男性)

<input type="radio"/>	方言は地域の宝だと思う。(常陸太田市・59歳男性)
<input type="radio"/>	使うことで、地元愛を深めることにつながり良いと思います。(常陸太田市・26歳女性)
<input type="radio"/>	「茨城弁はイントネーションが変」等他県の方と話しているとカルチャーショックを受けることも多々あります。それぞれのお国訛りを「恥ずかしい」ではなくユーモアで楽しめるようにできたらいいと思います。ワースト1位の茨城県ですが「ひよっこ」で脚光を浴びたということもありこの機にもっと茨城を知ってもらえるように県民も自分の故郷そしてお国訛りにも愛着をもって過ごしていけるようにしたいですね。(常陸太田市・58歳女性)
<input type="radio"/>	方言と知らないで(気にしないで)使用しているから価値があると思う。(常陸太田市・60歳男性)
<input type="radio"/>	幼少の頃から聞き、使っていたので茨城方言と思ってなかった。まあ北関東、東北地方は使うのかなと！今後も伝承していきたい。(行方市・男性58歳)
<input type="radio"/>	けっこう愛着はもっていて、普通に使っているが、言い方がケンカっぽいと思うので、外で使うにはちょっと恥ずかしい。でも残していきたい。(常総市・男性57歳)
<input type="radio"/>	おもしろい。(常総市・女性46歳)
<input type="radio"/>	方言で話すと親近感が沸く。残していきたい。(常総市・男性38歳)
<input type="radio"/>	今のままでいいと思っています。(常総市・女性52歳)
<input type="radio"/>	大切にしていきたい。(常総市・男性46歳)
<input type="radio"/>	ことばは大切なものと考えています。文化として残していきたいなと感じています。(下妻市・女性43歳)
<input type="radio"/>	親しみやすく暖かいイメージ。(常総市・男性32歳)
<input type="radio"/>	方言は愛嬌があり将来まで残したいと思う。(坂東市・男性36歳)
<input type="radio"/>	ダサさが逆に良い。(常総市・女性25歳)
<input type="radio"/>	本として残してほしい。(常総市・男性58歳)
<input type="radio"/>	親しみがあって良いと思う。(つくばみらい市・男性39歳)
<input type="radio"/>	方言があった方がおもしろい。(常総市・男性44歳)
<input type="radio"/>	分からない言葉もたくさんあるが、みんなには使って欲しい！！(常総市・女性42歳)
<input type="radio"/>	茨城弁は「～べ」が一番なじみがあると思います。私的には、やっぱりどこかホッとする言葉です。(常総市・女性50歳)
<input type="radio"/>	昔みたいには使用しない言葉もあるが、方言ってとっても魅力的であたたかみがあり、今後も使っていきたい！(古河市・女性35歳)
<input type="radio"/>	美しい言葉は使っていきたいと思います。(古河市・男性29歳)
<input type="radio"/>	方言だと気付かずに、ずっと使っていた言葉もあり、おもしろいと思いました。(笠間市・女性41歳)
<input type="radio"/>	いいことばだと思う。(笠間市・男性57歳)
<input type="radio"/>	方言は宝です。(笠間市・男性59歳)
<input type="radio"/>	祖父母から良く聞いたことがある。その地方独特の言語であるので大切にしたい。(境町・男性43歳)
<input type="radio"/>	田舎っぽい方言も愛着がわく。(境町・女性31歳)
<input type="radio"/>	方言は恥ずかしい感じはあるが親しみが持てる。(境町・男性50歳)
<input type="radio"/>	自分の生まれ育った茨城のことばであるから大好きです。(境町・男性45歳)
<input type="radio"/>	親しみを感ずる！(境町・男性62歳)
<input type="radio"/>	愛着のある言葉を使っていきたい。(水戸市・男性33歳)
<input type="radio"/>	ポピュラーなものは愛着があるので将来まで残るといいなと思います。(牛久市・男性42歳)
<input type="radio"/>	知りたい。(常陸太田市・27歳女性)

表13. 嫌い、使いたくない (n = 73)

	意見 (町村市 (出身地)・性別年齢) □・・・良い点と悪い点ある △・・・良いと思わない
□	会話が成り立てば使っても良いと思うが、面白くもあり、はずかしくもあるので、伝統として残さなくても良いかなと思う。(下妻市・女性43歳)
□	方言を知ることによって、自分の住んでいる県に愛着を持ち、知れば知る程おもしろいのだが、積極的には使おうと思わない。(水戸市・男性24歳)
×	けんかしているように聞こえるが慣れれば気にならない、テレビで紹介される方言は少し恥ずかしい。(行方市・43歳女性)
×	けっこう愛着はもっていて、普通に使っているが、言い方がケンカっぽいと思うので、外で使うにはちょっと恥ずかしい。でも残していきたい。(常総市・男性57歳)
×	学生時代、よくばかになれたがなおさなかった。(行方市・58歳男性)
×	テレビで茨城人のインタビューを聞くとがっかりする。(ひたちなか市・53歳女性)
×	方言は自分が使用するの少し恥ずかしいが、全くなくなってしまうのは少しさびしい気がします。(ひたちなか市・51歳女性)
×	語気が強い印象がある。(古河市・36歳女性)
×	口が悪く聞こえる。(古河市・27歳女性)
×	農村部で使う、いなくさい言葉。(古河市・56歳男性)
×	自然淘汰されるがままに…。(日立市・31歳男性)
×	あまり良いイメージはない。(茨城町・45歳男性)
×	他の人が話しているのを聞くとイヤな気分になる。(千葉県・男性61歳)
×	強い口調に聞こえたり、攻撃的な感じがしたりする言葉は良い感じをしないことが多いです。(神栖市・女性47歳)
×	あまり好きではないが、なくなってしまうのはさみしいかもしれない。(神栖市・女性28歳)
×	「歩いて行く」を「歩いてく」というなど、促音便がおおく、濁点も多いので、話していてやや怖い印象があるのかなと思います。(神栖市・女性23歳)
×	圧が感じられ県外では勘違いされることもあると思う。(つくば市・男性32歳)
×	何とも思っていないが、高圧的なイメージはある。(つくば市・男性29歳)
×	ことば (方言) というよりは、イントネーションに独特なものがあり、耳触りがよくないせいか方言からくるイメージの「ほのほの」感が稀薄。(常陸太田市・61歳男性)
×	方言というよりイントネーションの問題だと思う。(茨城町・28歳女性)
×	漫画「いなかつ大将」のなかつは茨城方面の方言とのこと、茨城弁はきれいな言葉 (方言) ではないので将来的になくなって欲しい。(常陸太田市・49歳男性)
×	中途半端な方言。(常陸太田市・54歳男性)
×	県外に行くと話せなくなる。(常陸太田市・46歳男性)
×	テレビ等でバカにされている場面を見ているため東京や都会に行った際にできるだけ標準語で話すようにしている。(常陸太田市・41歳男性)
×	アンケートから方言としらずに使っている言葉がありびっくりしました。茨城の方言は、言葉がきつく感じるの、今後言葉に柔らか味があるように変化して欲しいです。(常陸太田市・35歳男性)
×	方言というより茨城弁はイントネーションがおかしい、変、矯正しにくいといわれるのが気になる。(常陸太田市・47歳女性)
×	茨城は方言というより訛り。(常陸太田市・44歳男性)
×	下品。(常陸太田市・38歳男性)

×	最初聞いた人は怖いと思います。そこで嫌な思いをしたらより一層茨城が嫌いになると思います。でも茨城に住んでいる期間が長くなってくると愛着がわくようになってきました。(常陸太田市・47歳女性)
×	メディアなどで誇張して言い過ぎ、取り上げられる言葉などにはほとんど出会わない。生活していても感じないが、県外に出た時に、イントネーションの違いなどで茨城弁であることを感じる。茨城弁は口調が荒い気がする。(常陸太田市・38歳男性)
×	語気が強く聞こえるため怒っているように相手に捉えられてしまうのが残念である。(常陸太田市・32歳男性)
×	茨城訛りは、怒っているように聞こえてしまうと思う。専門学生の頃、他県出身の同期生と話している時に、自分自身は普段通りに話しているつもりであったが、話し相手の同期生から「なんで怒ってるの?」の言われたことがあった。(常陸太田市・26歳男性)
×	アンケートを回答してみて茨城の方言は好ましくない様子や状態に対して用いられることが多いことからぶっさらほうな印象を与えてしまうことがあるのだと感じた。(常陸太田市・24歳男性)
×	会話の中で方言を使用されると、会話が成立しないことによるコミュニケーション不足が生じるため、将来的に無くしたほうが良いと考えています。(常陸太田市・29歳男性)
×	茨城弁は、京都等のようにかわいい方言のイメージがないので、嫌いとはまではいきませんが好みではありません。(常陸太田市・19歳女性)
×	言葉がきついので、関西方面では標準語で話すよう気をつけている。(常陸太田市・63歳男性)
×	他県の人から聞いたら怒っているように聞こえそうです。口調が強いイメージ。(小美玉市・女性20歳)
×	ネガティブな状況下で使用されるイメージが強いです。苦手です。(石岡市・女性40歳)
×	怒ってなくても怒っているように聞こえるものが多いという印象があります。(水戸市・女性27歳)
×	アクセントが強い。やさしく、あたたかみのある方言でないため使いにくい(水戸市・男文化として残すことは必要と思うが生活で使いたいとは思わない。茨城の方言はケンカをしているような攻撃的な口調に聞こえがち。茨城のイメージを悪くしている可能性も否定できない面があるが、方言自体には何の罪も無いので悩ましい。(水戸市・男性36歳)
×	京都では身分の高い人が方言を使い、茨城では身分の低い人が方言を使う気がします。(水戸市・男性33歳)
×	ださい。かわいくない。(かすみがうら市・女性37歳)
×	県南西の茨城弁は荒々しい語感のものが多く、その中に温かみがあると思う。(つくばみらい市・男性42歳)
×	きたない。(つくば市・男性30歳)
×	仕事において、お年寄りの方と話す時、方言やなまりでほぼほぼ聞き取れないことが多々あり困る。(坂東市・女性27歳)
×	TV番組で、方言特集ありますが、いつも汚いイメージで取り扱われる感じがします。(常総市・女性36歳)
×	茨城の方言は言葉尻よりイントネーションが強烈。(常総市・男性55歳)
×	濁音が多く、共通語からかけはなれた言葉になっているので、会話が成立しない。(常総市・女性49歳)
×	イントネーションが特徴的なので、次第になまりが移る様な気がしています。(つくば市・女性28歳)
×	高齢者しか使っていないイメージ。(常総市・男性31歳)
×	言い方がきつい表現があるように思う。聞き手が怒られている感じに思う。(常総市・男性37歳)
×	他の地域の人から見ると言葉遣いがあらうように聞こえてしまう。嫌いとはなくなってもよいとまで思わないが損をしている気がする。(坂東市・男性30歳)
×	方言というよりも、茨城弁のイントネーションが特にきらいです。(下妻市・男性52歳)

×	言葉が荒く、また語気も強いので非常に乱暴に聞こえる。自身が使いたいとは思わないし、方言が耳慣れません。(古河市・女性50歳)
×	聞いていて汚い、乱暴であるため通常の言葉としてなくなってもよいと思うが、日本の文化や言語という学問的な面では残すべきと思う。(古河市・男性56歳)
×	聞いていると、とがった印象を受ける。(古河市・男性32歳)
×	大きい声とかで話されると、怒っているように聞こえる。(古河市・女性33歳)
×	県央、県北のことばは聞き取れません。(古河市・女性25歳)
×	県外の者からすると、はじめて聞いたとき怒られている様な、きつい印象を与える。(笠間市・女性37歳)
×	私も言われたことがあります。口調が強めなので、話している人を見ると怒っているように感じます。(常総市・男性33歳)
×	高齢の方だと時々意味の分からない言葉を聞くことがある。(坂東市・女性35歳)
×	方言は年配の方が使用する言葉。(常総市・男性32歳)
×	栃木の方言は似ていると思うが、茨城のほうがなまりはキツイ。(小山市・男性34歳)
×	東北弁はかわいらしいイメージがあるのに、茨城弁は、田舎くさい感じがするので残念に思っています。(笠間市・女性50歳)
×	他の県の方言よりも使用していて、かっこいい、かわいいなどが無く、むしろ、笑われたり、はずかしかったりするイメージがあります。(坂東市・男性31歳)
×	アンケートに答えてみて、マイナスイメージの言葉が多いように感じた。(那珂市・男性39歳)
×	「大丈夫=だいじ」等、好んで使用している言葉もあり、愛着を持っている。(境町・女性31歳)
×	茨城県の方言についてよく知らない。(境町・女性43歳)
×	怒っているように聞こえるので苦手です。(水戸市・女性26歳)
×	発音に語尾上がりが多く、相手方に対して厳しくしているようにとらえがち。(那珂市・42歳)
×	言い方がきつく、ケンカしているように聞こえる。(水戸市・男性58歳)
×	イントネーションに田舎くささを感じる。(水戸市・男性42歳)
×	乱暴なイメージを持たれがち。茨城の方言、というよりもお年寄りことばという認識だった。(潮来市・24歳女性)

4. おわりに

本稿では、茨城方言についての意識を県北、県央、鹿行、県西地域の市町村役場に在勤する906名の回答からその意識について的一端を考察し、報告した。結果として、方言についての意識（好ましいか）に関して、10代から50代まで年代が上がるにつれて茨城方言に関するこの好ましさの意識の割合は上がるが、60代以上の回答ではその割合は下がることが分かった。

また伝統性についての意識（将来、方言を残したいか）に関しても、10代から50代まで年代が上がるにつれて茨城方言に関する「将来、残したい」という伝統性への意識は上がるが、60代以上の回答ではその回答の割合は低くなることが分かった。性差があり、女性よりも男性の方が「将来、なくなってもよい」という回答が多かった。年齢が上がるにつれ肯定的に方言をとらえることがわかる。一方、若年層は、メディアの発展もあ

り、特に身近なものとしてとらえるというよりも特に何も思わずいるということだろう。50代はその親世代の影響もあり、方言に親しんでいるのではないかと考える。60代～の最終学歴をみると高校卒業が多く、四年制大学卒業は少ない。地元（高校、大学など）に進学し、就職して県外に出ないことからすると、60代～は、方言についてコンプレックス（田舎くささや恥ずかしさ）を持っており、意識としてマイナスな感情があると考えられる。自由回答では、県西地域の回答者には「茨城方言の知識は低く、またその使用もない」という回答が多かった。また県北から県央、鹿行地域ではやはり、設問にあるような茨城方言の語に関しては「語形が違うが使う」や「この設問にあるような意味ではこの語は使わない」といった個々の方言に関する意見や知識が多く回答された。また、昨今、方言を取り扱ったバラエティ番組やネットニュース、書籍、SNSといったメディアで触れ、「方言がおもしろい」、「親しみやすい」、といったポジティブな意識も目立った。SNSが一般的になり広域での情報を得られる一方で地域といった狭域での言葉や文化に親しみを覚えるといったことは多い^(注6)。

一方で、東北や北関東の方言に通じる「田舎くささ」や「汚い」「語気が強く、怒っているような感じ」といったマイナスのイメージや意識も多く見られた。

今後、今回の意識調査に加え、選定した茨城方言の個々45語については、報告したい。追加データを加え、地域ごと、年代ごと、性別ごとの使用率の違いについて調査・分析をし、報告したいと考える。また、二次調査として県南地域における方言使用意識も考えている。

5. 参考サイト・文献

- [1] 茨城県公式HP
<http://www.pref.ibaraki.jp/>
- [2] 連続テレビドラマ小説『ひよっこ』
<https://www.nhk.or.jp/hiyokko/index1.html>
- [3] 『都道府県魅力度ランキング』
ブランド総合研究所 地域ブランド調査2018（2018年10月15日月曜日）
http://tiiki.jp/news/05_research/survey2018/4130.html
- [4] 佐藤亮一（2009）『都道府県別 全国方言辞典』三省堂
- [5] 青木智也（2004）『いばらぎじゃなくていばらぎ一超人気WEBサイト「茨城王」を読む』
茨城新聞社
- [6] 青木智也（2011）『ごじゃっぺディアー楽しく学ぶ茨城弁』茨城新聞社
- [7] 魔夜峰央（2015）『このマンガがすごい！comics 翔んで埼玉』宝島社
- [8] 井田ヒロト（2014）『お前はまだグンマを知らない』新潮社

注

- (注1) 『ひよっこ』とは、2017年4月3日から9月30日まで放送されたNHK連続テレビ小説で、1964年の東京オリンピック前後の時代を舞台に茨城県北西部の久那郡の村・奥茨城村で育った米農家の長女・谷田部みね子（有村架純）がヒロインである。出稼ぎのために東京へ行った父・実が正月に帰宅しなかったことをきっかけとして集団就職で上京し、下町・向島のトランジスタラジオ工場の寮暮らしで働きながら父を探し、様々な試練を乗り越え、成長していく姿を描く。県内では、撮影地として高萩市、大子町、常陸太田市、常陸大宮市が協力している。
- (注2) 調査を依頼した30市町村のうち、3市町村からは協力を得られなかった。理由については、「調査協力は、通常の業務に差し支える」ということであった。
- (注3) 基本的には、郵送法での調査協力をお願いしたが、市町村によっては所内回覧PDFといった方法で協力をいただき、メールで回答を返送してもらった市町村もある。
- (注4)

県内地域（市町村役場）と性別の内訳（n = 900）

	市町村役場	男性	女性	計
県北地域	日立市	16	6	22
	東海村	0	5	5
	ひたちなか市	6	9	15
	那珂市	4	1	5
	常陸太田市	163	57	220
	常陸大宮市	7	3	10
県央地域	水戸市	52	41	93
	小美玉市	5	10	15
	笠間市	15	14	29
	城里町	7	5	12
鹿行地域	鉾田市	0	1	1
	神栖市	32	20	52
	潮来市	4	6	10
	行方市	21	9	30
県西地域	結城市	6	4	10
	古河市	41	42	83
	八千代町	15	9	24
	下妻市	13	7	20
	五霞町	7	3	10
	境町	25	18	43
	坂東市	9	1	10
	常総市	116	65	181
	計	564	336	900

被調査者の年代と県内地域（市町村役場）の内訳（n = 899）

	県北地域	県央地域	鹿行地域	県西地域	計
10～20代	54	34	22	74	184
30代	44	51	13	97	205
40代	102	42	30	109	283
50代	67	19	17	79	182
60代以上	10	3	11	21	45
計	277	149	93	380	899

被調査者の性別と県内地域（市町村役場）の内訳（n = 900）

	県北地域	県央地域	鹿行地域	県西地域	計
男性	196	79	57	232	564
女性	81	70	36	149	336
計	277	149	93	381	900

（注5）グラフは実数を示す。

（注6）「イバラキング」としても有名な青木（2004）（2011）の著書^{[5][6]}や、北関東を扱ったものでは、魔夜（2015）『翔んで埼玉』^[7]や井田（2014）『お前はまだゲンマを知らない』^[8]などローカルな言葉や文化を面白おかしく取り扱った書籍がSNSなどから話題となり、映画化やドラマ化され、親しまれている。

謝辞

今回、調査にあたっては、高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市、那珂市、常陸太田市、常陸大宮市、大洗町、水戸市、茨城町、小美玉市、笠間市、城里町、鉾田市、鹿嶋市、神栖市、潮来市、行方市、桜川市、結城市、古河市、八千代町、下妻市、五霞町、境町、坂東市、常総市の市町村長、市町村役場職員の皆さまには、お忙しい中、今回の調査に多大なご協力を賜った。ここに感謝の意を示したい。